



市民協働のまちづくりフォーラムを開催

9月5日、リージョンプラザ文化ホールで、市民や子育て支援活動団体の関係者約100人が参加して、市民協働のまちづくりフォーラムが開かれました。

子育てについて考えるトーク&ディスカッションでは、市内の子育て支援活動団体からサロンパンビの植岡かえでさん、NPO法人ナチュラルビレッジの大和さよさん、ネットワーク「みどりのほらっば」の安藤志保さん、ほんごう子ども図書館の村上招子さん、みらい子育てネット・みはらの齋藤佐代子さんらが出席し、日ごろの活動体験をもとに、子育ての現状と課題や、協働のまちづくりについて話し合いました。

「子どもが育つ以上に親が成長することが大事」「地域で連携して子育てをすることが必要」「リーダーとなる人材を地域の中で見つけ、活動を継続していく重要性」などの意見が出されました。

子育てを地域協働で行うためには、地域の人生経験豊富な人の力を借り、あせらずに、できることから、できる範囲で活動することが大事との指摘もありました。

その後、児童健全育成推進財団の鈴木一光さんが地域は子どもの苗床～広げよう！子育てのネットワーク～と題して講演。参加者はメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

今後、市ではフォーラムでの議論を生かし、子育て支援活動団体と協働して、より子育てがしやすいまちづくりをめざしていきます。



▲活動団体、地域、市の協働で子育てに取り組んでいくことが大事です

11月1日を「三原教育の日」と制定

三原市議会は、9月議会で、心豊かで明るく楽しい三原市の未来を願い、思いやりのある心の教育を展開し、新しい時代の新たな教育を創造するため、11月1日を「三原教育の日」と定め、市民協働で教育に対する取り組みを推進し、「教育のまち～三原」をめざすことを決議しました。

三原市では、三原の宝である子どもたちが、これからの時代をたくましく生きるための力となる「知：確かな学力」「徳：豊かな心」「体：健やかな体」を、バランス良く育成するため、学校、家庭、地域社会が連携して「三原の教育」について考え、さまざまな取り組みを実施していきたいと考えています。

教育委員会は、「三原教育の日」の前後1か月を「三原教育月間」と定めて、各学校で、全ての市民の皆さんに「三原の教育」について、理解と関心を深めてもらうよう、取り組んでいきます。

問い合わせ先 教育振興課(☎0848⑥6152)

これからもお元気で！長寿を祝福

9月16日、三原市の最高齢者で110歳の堀本マツエさんと、今年度に100歳を迎える各地域の高齢者を五藤市長がそれぞれ訪問し、笑顔で長寿を祝いました。

五藤市長は「おめでとうございます。ますますお元気で過ごしてください」と記念品を手渡しました。

本郷町の中本好枝子さんは「感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます」と元気に語りました。また、久井町の法堂勝子さんは、早寝・早起きをして、三度の食事をしっかり食べ、新聞や雑誌を隅々まで読むことが長生きの秘訣と笑顔を見せました。

今年度、市内で100歳を迎える人は21人で、100歳以上の人は合計77人になります。

敬老の日を中心に、9月から10月にかけて170会場で、町内会や女性会、社会福祉施設などの主催により、敬老事業が行われ、記念品が贈られます。



▲新聞や雑誌、折り込み広告を隅々まで読むのが日課の法堂勝子さん

